

平成28年度2学期 地域連携部マネジメント

柱となる活動	2学期への提言	常時活動	9月	10月	11月	12月	到達目標	評価基準 (Check)	成果と課題 Do&Check	3学期への提言 Action	
学校教育目標	校訓「みずから学び、みずから鍛え、みんなと生きる」を体現する生徒の育成										
重点努力目標	(1)アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業を実践することによって、基礎・基本の徹底と思考力・判断力・表現力の向上をバランスよく図り、自ら課題意識を持って主体的に学習に臨み、友と高め合うことのできる生徒を育成する。 (2)失敗を恐れず挑戦する気概、辛抱・我慢して困難に打ち勝つ精神力、怠惰に流されず自己コントロールできる力をすべての教育活動を通して鍛え、強くたくましい心と体を備えた生徒を育成する。 (3)学級や部活動、また地域社会との関わりの中で人に喜んでもらうために自分には何が出来るかを考え行動することが、結果的に自己理解や自分を大切にすることにつながることを実感させ、夢や希望、やる気を持った生徒を育成する。										
分掌重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・将来への夢や目標を持ち、進路実現に向けて学習に取り組む生徒の育成 ・困難なことから逃げず、友達とその課題について乗り越えようとする生徒の育成 ・地域とのつながりを大切に、地元へ貢献しようとする生徒の育成 										
みずから学ぶ活動	・自学ノートを取り組む生徒とそうではない生徒の固定化で達成率8割に届かない。委員会等の活用	◎自学ノートを活用して、自分の課題を克服する生徒の育成 ・各クラスの自学ノートのモデルを掲示する。	室長会や委員会など、生徒同士の関わりの中で提出率向上への取り組み				自学ノートを毎日提出で	自学ノート提出率80%			
	・ふるさと先生は4人程度の講師		講師の選定	「ふるさと先生に学ぶ」実施	実施後のC&Aを行い、次年度への引継	3学期の職業調べについての準備					
	・職場体験に向けての準備が少しまごついた(5月連休明けに動く必要有り)		「高校の先輩に学ぶ」計画 修学旅行3日間の素案	「高校の先輩に学ぶ」卒業生選定・依頼 修学旅行入札書作成・代理店へ送付	「高校の先輩に学ぶ」実施 入札し、29年度修学旅行代理店の決定	「高校の先輩に学ぶ」C&Aを行い、引継ぎ資料作成 修学旅行実行委員会の結成	地域人材の発掘に努め、協力企業への協力を要請し、参加事業所の増加をはかり、地域の人材を活用できる。	地域人材、地域企業の協力を得ることができる。			
	・3年生向けの高校の先輩に学ぶ研修も検討		3年休日補充学習の実施計画の素案	参加可能な卒業生等の情報収集 町教委との連絡	日程及び講師の確定 実施計画の周知	参加生徒の集約 (実施開始時期については要検討)					
みずから鍛える活動	・生徒は情報端末を持っているという前提で対応を考えていくべき	保護者・地域の方々の学校運営への参画意識の高揚と情報提供を通じた保護者啓発 ・学校便り ・学年通信 ・各種広報 ①PTA関係行事(運動会、文化祭) ②若鷲あいさつ見守り隊 ③若鷲見守りDAY	①運動会(9月)、文化祭(11月) 参加への呼びかけ(学年・学級通信等)→参加率集約→振り返り			平日のメディアとの接触時間が2時間以内	平日にメディアとの接触時間が2時間以内の生徒が60%				
	・メディアに関しては保護者啓発の必要性		②若鷲あいさつ見守り隊への協力要請(保護者主導で実施する体制継続)→参加数集約→振り返り			・「PTA関係行事」「若鷲校内見守り隊」「若鷲あいさつ見守り隊」等、保護者・地域の方々を巻き込んだ活動が定着する。	・PTA関係行事(運動会、文化祭)への参加率が50%以上 ・若鷲見守りDAY参加者数が平均10人以上 ・若鷲あいさつ見守り隊の参加者数が平均5人以上				
	・家庭でコントロールできない場合は、学校が預かるなどの協力体制も必要		③若鷲見守りDAYの持ち方検討(「秋季大会激励会」、いのちの出前授業等)→参加数集約→振り返り								
	・チャレンジデーに関しては、小中で相談し、あり方についても要検討		各家庭の状況に応じて新規内容の実施または小学校の弟妹との協調実施			第2・第4水曜日の実施	実施率80%				
みんなと生きる活動	・複数町区への呼びかけの場合は、会場変更し臨機応変に対応する	町区別生徒会を活用しての地域行事への積極的参加	教務からの情報提供→町区別生徒会の随時開催(行事事前)、教職員の参加、各地区からの情報の集約、生徒への広報			町公民館長・主事会への情報提供→生徒の地域行事への参加状況、意見の集約	・地域の行事やボランティア活動への教師・生徒の参加率実績が昨年度を上回る。	・生徒質問紙調査項目18「地域の行事や活動に積極的に参加している」の肯定的評価が80%以上達成			
	・ボランティア等への新規参加率を増やす方法を考える										
	・赤ちゃんとふれあいは肯定的評価が高かった。										
・あいさつなど教師からすすんで行う	挨拶、時間の遵守等、基本的な生活習慣の再設定	教員が率先してあるべき姿を示す、室長会等の活用			挨拶、時間を守る行動等、生活習慣が身についている。	質問紙「挨拶」「ルール・マナー・モラル」「時間を守る」の各項目平均8割以上					
・周りを見て行動することの指導の必要性											